

4 国際連携

		中期目標		中期プラン				
項目	目標	目標の説明	ロードマップ				プラン内容	
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		
1	国や文化が異なる人々が学び合い、知を創造するグローバルコモン実現への施策	外国人留学生のより一層の受入れ強化とコミュニケーション環境の整備	第1期中期計画において実施した基盤整備をベースとして、受入留学生(短期含む)をさらに増加させるための、英語科目の拡充などの諸施策を実施する。併せて、多文化理解につながる共創的な学びの場を提供する。	<p>受入留学生目標数4,000名(目標達成年度:2023年度)に向けた取り組み</p> <p>短期受入プログラムを中心とした取り組み強化</p> <p>外国人教員増などによる、英語コース・英語科目の拡充</p> <p>国際混住寮の整備と和泉国際コミュニティの形成</p>				<p>①2021年度までに、受入留学生数を3,700名まで引き上げる。</p> <p>②世界中から留学生を集めるため、これまで受入れ実績が少ない地域に向けた短期プログラムの拡充を中心として留学生増を図る。</p> <p>③外国人教員の比率をより一層高めることにより、英語コース、英語科目の拡充を図る。</p> <p>④和泉キャンパスC地区の混住寮の連携を図り、教育的コミュニティ・プログラムを開発・提供することで、和泉キャンパスを中心としたエリアに、多文化理解につながる多様な共創的な学びの場を提供する。</p>
2	国際社会で活躍する人材の輩出	グローバル人材育成機能のより一層の高度化	第1期中期計画において実施した基盤整備をベースとして、次の資質を有するグローバル人材を輩出するための仕組みの高度化を図る。 ①アイデンティティを確立し、新しい環境でも柔軟に変化・成長できる。 ②異文化を理解し、新たな価値を創造できる。 ③基礎ツールである語学力(英語力)を、実践で活用できる。 ④自ら判断し、現場における行動力を発揮できる。 ⑤高度な専門能力と国際教養を備えている。	<p>国際的インターンシップの多様化</p> <p>英語力強化プログラムの多様化</p> <p>英語による専門科目の受講機会の拡大</p>				<p>①質の高い国際的インターンシップ(短期・長期)を、国際機関、各国政府機関、民間非営利団体との連携を通じて提供し、様々な「現場力」を養成する機会を拡充する。</p> <p>②多種多様な学生のニーズに対応するために、正課外における実践的英語力強化プログラムの多様化を図る。</p> <p>③海外有力大学の授業科目をキャンパス内に誘致するなど英語による専門科目を受講できる機会の拡大を図る。</p>
3	海外への学生送出し支援	海外留学プログラムの多様化と経済的支援の拡大等、海外留学促進に向けた取り組み	第1期中期計画において実施した基盤整備をベースとして、2023年度に、海外留学経験者(短期含む)を4,000名に引き上げるため、より一層の海外留学プログラムの多様化を図ると同時に危機管理機能の高度化を図る。また、海外留学を促進するための経済的支援の拡大を図る。	<p>海外留学経験者目標数4,000名に向けた取り組み</p> <p>海外留学プログラムの多様化と単位化拡充</p> <p>全学危機管理システムの構築</p> <p>海外トップ大学などへの留学拡大に向けた経済的支援の強化</p>				<p>①2021年度までに、海外留学経験者数を3,250名まで引き上げる。</p> <p>②欧米のトップスクール、ASEAN地域のトップスクールとの連携に加えて、中南米、ロシア、中東、アフリカなどの新興国との連携強化を図る。また、PBL型の協定留学を拡充すると同時に、英語力に応じた多様な一方通行型送出しプログラムの増設、サマーセッションプログラムの拡充、ブリッジプログラム(英語力向上+正規科目)の設置、海外における英語力強化プログラムの実施など、各学部・研究科による単位付与に耐え得る送出しプログラムの裾野を広げる。また、自主留学を単位化する仕組みを構築する。</p> <p>③危機管理機能の高度化を図り、全学危機管理システムを構築する。</p> <p>④海外トップ大学への留学を中心として、留学を促すための経済的支援の拡大を図る。</p>

4 国際連携

		中期目標		中期プラン					
項目	目標	目標の説明	ロードマップ				プラン内容		
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度			
4	開発途上国・新興国からの留学生受入れを通じた国際社会への貢献	ASEAN諸国等新興国からの留学生受入れ増大による国際社会への貢献	日本語教育体制の拡充、英語による授業の充実、渡日前入試の拡充などを関係機関と連携して進めるとともに、短期の研究交流促進のための科目等履修生制度の活用や研究生制度導入により、多様な国からの優秀な留学生の受入れを図る。また、「大学の世界展開力強化事業」(2016年度採択)による人材育成プロジェクトや授業を、タイのアセアンセンターをハブとして展開し、域内交流・相互交流を促進する。		<p>日本語教育プログラムの強化</p> <p>英語による受入れ環境の強化</p> <p>渡日前入試・海外指定校入試の拡充と戦略的助成金の充実</p> <p>新たに短期研究交流プログラムの設置</p> <p>アセアンセンター地域における各種プログラム等の展開</p>				<p>①日本語教育体制の強化を図り、多様な日本語レベルに応じたプログラムを提供する。</p> <p>②英語学位コースや英語科目を拡充することにより、日本語力が十分でなく日本語学習歴の浅い留学生の受入れ環境を整備する。</p> <p>③渡日前入試を拡大すると同時に、戦略的助成金制度の充実を図る。日本語履修可能な海外の高校を海外指定校に指定して定期的に日本語能力の高い学生を確保する。</p> <p>④新たに短期研究交流プログラムの仕組みを構築する。</p> <p>⑤アセアンセンターをハブとするFDワークショップ、学生会議等の開催、同センターでの授業を展開する。</p>
5	国際的な「知識基盤社会」の発展への貢献	研究力強化と海外の大学との連携した取り組みによる国際プレゼンスの向上	研究者交流・ファカルティエクスチェンジ等を促進し、教育の質向上を図るとともに、こうした教員派遣を可能とする制度的裏付けを関連機関の連携を図りながら実現していく。また、海外の大学と連携したプロジェクトに取り組み、社会の発展に寄与することで大学のプレゼンスを向上させる。		<p>国際的な研究活動の支援・拡充</p> <p>アセアン地域における共創人材育成</p> <p>研究論文(特に海外共同研究者との共著論文)数の増加</p>				<p>①国際交流基金事業や国際シンポジウム助成を利便性を向上させつつ継続し、国際的な研究者交流をサポートする。</p> <p>②2016年度採択「大学の世界展開力強化事業」の取り組みを通じて、言語や文化の違いを越えて現実的な合意や価値の形成(共創)を実現できる人材育成・共創的教育システムの創造を実現する。</p> <p>③国際ジャーナルへの投稿に対する各種支援策を検討・実施する。</p>
6	日本からの「知」の発信強化	海外への情報発信の充実と広報のさらなるグローバル対応	「スーパーグローバル大学創成支援」事業の推進に向け、広報活動においても、海外の多様なステークホルダーを想定して、よりリアルでわかりやすい情報発信を行うための環境を拡充していく。		<p>海外における本学ブランディング構築と留学生受入れ促進に向けた情報発信力強化</p>				<p>①英語ホームページを軸として多言語化し、海外において訴求力の高いコンテンツを用い本学の情報を発信する。(最新ニュース/M's Opinion/ALL ABOUT MEIJI等)</p> <p>②海外の主要メディアにおいて広告を掲載する。(現地新聞/WEBバナー広告/リスティング及びディスプレイ広告等)</p> <p>③SNS(Facebook, LinkedIn, 新浪微博)の本学アカウントから最新情報を発信する。</p>

学校法人明治大学第2期中期計画

4 国際連携

(1) 国や文化が異なる人々が学び合い、知を創造するグローバルコモン実現への施策【外国人留学生のより一層の受入れ強化とコミュニケーション環境の整備】

本学は、教育と研究の両面においてトップユニバーシティとなることを目標にして、大学の国際化に近年取り組んできました。同時に、「個を強くする」本学の学生育成方針に基づき、異なる文化や価値観を尊重し、世界の平和と繁栄に貢献する国際人材の養成を目指してきました。世界と共に生き、世界に貢献し、地球市民の一員としての役割を担う人材を育成するため、世界中の多様な人々が集い、語らう場「グローバルコモン」を創造するため、2014年採択の文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」構想を基礎に、国際連携機構を中心に各機関が協力しながら、戦略的に本学の国際化を推進していきます。

具体的には、受入れ留学生・送出し学生数双方の規模拡大（共に2023年度に4,000人）、実践英語力強化、協定校拡充、教員モビリティの拡大、共同研究の拡充、外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員比率の引き上げ（2023年度に56.9%）などを推進します。

留学生受入れについては、これまでも優秀な留学生を増加させるため、奨学金制度改革、短期研究生制度の構築等を行ってきました。引き続き、正規留学生・交換留学生数の増加に向けて、新たなプログラムの実施、留学生リクルートの強化に取り組んでいきます。

また、外国人教員及び外国の大学での学位取得教員の増加を契機に、質保証を伴った英語学位コースの拡充、英語による専門科目・授業コマ数の増加を図り、海外からの留学生が受講しやすい授業環境の整備を目指します。

さらに、着実に留学生が増加している現実を踏まえ、日本人学生と留学生が共に学ぶ環境を整えることにより、学生の異文化理解・交流を促進します。2019年3月、和泉キャンパスC地区に国際混住寮（仮称）が開設されることを踏まえ、近隣と連携した教育的コミュニティ・プログラムを実施し、キャンパスを中心としたエリアを多様で共創的な学びの場とすることを目指します。

(2) 国際社会で活躍する人材の輩出【グローバル人材育成機能のより一層の高度化】

グローバル化が急速に進む現代社会においては、広い視野によって培われ

る教養と専門性、言語・文化・価値観の違いを越えて関係構築を図るコミュニケーション能力、さらには現状に甘んずることなく新しい価値を創造する能力など、グローバルな知識基盤社会を主体的に生き抜く人材の育成が求められています。大学はこのような時代のニーズに応え得るグローバル人材の育成を図っていかねばなりません。

そのためにも、外国語運用能力・コミュニケーション能力の向上は必須であり、正課外においても実践的英語力の強化を図ります。また、海外有力大学の授業科目を本学キャンパス内で展開することによって、英語で専門科目を受講できる機会を増やしていきます。

さらに、学生の主体性・積極性、チャレンジ精神の向上を図るため、質の高い国際的インターンシップ（長期・短期）を、国際機関、各国政府機関、民間非営利団体との連携を通じて提供し、いわゆる「現場力」を養成する機会を拡充します。このことによって、外国語運用能力のみならず、相互理解や価値創造力、社会貢献意識をも備えた有為な人材を育成します。

(3) 海外への学生送出し支援【海外留学プログラムの多様化と経済的支援の拡大等、海外留学促進に向けた取り組み】

本学は、2012年度に文部科学省「グローバル人材育成推進事業(特色型)」に採択されて以降、学生の海外留学機会の拡大に向けた取り組みを加速させています。その結果、タイムズ・ハイアー・エデュケーションが公表している世界大学ランキングにおいて上位を占める欧米のトップスクール、あるいは、その著しい成長から「世界の成長センター」と称されるASEAN地域のトップスクールへの留学機会も飛躍的に増大しました。さらに、中南米、ロシア、中東、アフリカ等、新興諸国への留学機会の拡大も図ります。

拡大したのは、学生が留学する国・地域だけではありません。提供する留学プログラムの内容も、従来型の留学に留まらず、PBL型（プロジェクト・ベースト・ラーニング：課題解決型）、体験学習型へと広がりを見せています。このことによって、学生は自らの外国語運用能力に応じて、多様な留学形態を選べるようになりつつあります。これからも、授業料負担型留学プログラム、サマーセッションプログラム、ブリッジプログラム（英語能力向上＋正規科目）、海外での英語能力開発プログラム等、多様なプログラムの開発及び展開を図るとともに、各種プログラムへの単位付与についても積極的に取り組みます。

海外のトップスクールについては、高額な授業料が留学を志す学生にとっての妨げとなっています。このような状況を緩和する取り組みの一つとして、2017年度に「海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」制度を創設しました。引き続き、学生の留学を後押しするため、経済的支援制度の拡充

に努めます。

また、海外留学の機会が増えれば、留学する学生が事件や災害に遭う確率も高まらざるを得ません。学生が安全に修学し、多くの成果を得て無事に帰国できるよう、危機管理機能の高度化と全学的な危機管理体制の構築を図ります。

こうした一連の取り組みを着実に実行することによって海外留学を促進し、スーパーグローバル大学創成支援事業の構想調書に掲げた目標（2023年度海外留学経験者数4,000名）の達成を目指します。

(4) 開発途上国・新興国からの留学生受入れを通じた国際社会への貢献【ASEAN諸国等新興国からの留学生受入れ増大による国際社会への貢献】

様々なバックグラウンドを持つ留学生が本学キャンパスで日本人学生と共に語り、共に学ぶグローバル・キャンパスを実現させるためには、キャンパスの民族的なダイバーシティを高める必要があります。このため、以下のような一連の施策を実施します。

自国にいながら本学を受験できる渡日前入試制度を拡大するとともに、特に開発途上国・新興国の学生に本学への留学機会を提供するための、戦略的助成金制度の充実を図ります。また、日本語学習歴が浅く、日本語での修学が難しい留学希望者のための英語学位コースや英語科目の拡充、日本語で修学する能力を有する学生が在籍する海外高等学校の海外指定校、短期研究交流プログラムの設置等を重層的に実施します。

ASEAN地域については、2012年度に文部科学省「平成24年度大学の世界展開力強化事業～ASEAN諸国等との大学間交流形成支援～」に採択されて以降、同地域との連携を強化しており、その成果が後継事業である「平成28年度大学の世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」の採択にもつながりました。本学は2013年、タイ・バンコクに「明治大学アセアンセンター」を開設しており、同センターをハブとしたFDワークショップや学生会議の開催等による人材育成を通して同地域の発展に寄与します。

来日後、留学生が日本で充実した学生生活を送るためには、日本語能力の維持・向上が不可欠です。留学生向け日本語教育を充実させ、多様な日本語レベルに応じたプログラムを提供します。

(5) 国際的な「知識基盤社会」の発展への貢献【研究力強化と海外の大学との連携した取り組みによる国際プレゼンスの向上】

教育の市場化と学生モビリティの高まりに伴い、世界大学ランキングがますます注目されています。これらについては、英語圏の理系研究大学に有利

になる等の批判的な見方があるものの、本学のプレゼンス強化を図るためにはこうした世界標準のランキングへの対応も重要です。例えば、タイムズ・ハイアー・エデュケーションが公表する世界大学ランキングにおいては、エルゼビア社の Scopus データベースにある国際ジャーナルへの投稿論文数がランキングにおける順位の大きな決定要素となっています。これら国際ジャーナルへの投稿論文数の増大につながる方策について検討・実施していきます。具体的には、投稿論文数を増やし、国際共著論文率を全国平均の 24.9%（現在 17.9%）に高め、FWCI 値を 1 以上（現在 0.93）にすることを目標とします。

本学では現在、①優れた教育・研究業績を有する外国人学識者を招請し、講義・セミナー及び共同研究を通じて、本学の教育・研究活動の発展に貢献することを目的とする国際交流基金事業、②主として本邦に滞在している学外の外国人学識者をセミナー講演者として招聘し、本学研究者の研究内容を深めるとともに、学外の方々にも開放することで最新の知識を提供することを目的とするスタッフ・セミナー、③本学において開催される国際学会及びシンポジウムの開催に対し必要な経費の一部を助成し、研究活動の一層の発展及び国際化に寄与することを目的とする国際学会・シンポジウム助成、といった事業を実施しています。これらを継続して実施するのみならず、その利便性を向上させることで、国際的な研究者交流・学術研究を支援します。

また、研究力強化を一層図るため、研究支援制度を見直し、主に外部研究資金を獲得した教員に対して研究時間及び研究成果とりまとめに係わる時間を確保する等のインセンティブの付与により研究環境整備を推進します。在外研究員制度、特別研究者制度の再編も視野に入れたサバティカル制度の再構築の検討を進めていきます。

さらに、本学は 2016 年度に採択された文部科学省「平成 28 年度大学の世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」のプログラムにおいて、国連が提示した「持続可能な開発目標」に沿って、日本の高度経済成長を教訓として各国・地域の都市化に適合したインフラ形成とこれを運用する社会インフラの意義を理解し、その発展に寄与できる人材「持続可能な都市社会を支える共創人材」の育成に取り組んでいます。この取り組みを通じて、「知識基盤社会」の発展へ貢献し、本学のプレゼンスを向上させます。

(6) 日本からの「知」の発信強化【海外への情報発信の充実と広報のさらなるグローバル対応】

前述のとおり本学では、2014 年度に「スーパーグローバル大学創成支援」事業のタイプ B（グローバル化牽引型）、そして 2016 年度、新たに「大学の

世界展開力強化事業～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～」のタイプB（ASEAN地域における大学間交流の推進）に採択されました。これらの事業の推進における広報の役割は、従来本学の留学生の大多数を占める中国、韓国だけでなく、欧米はもちろん、ASEAN地域（特にタイやインドネシアに加え、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムといったCLMV諸国）にも重点的に目を向け、それらの国々から本学に関心を持つような広報活動を展開し、本学の魅力を理解してもらえるように訴えかけ、今まで以上に日本の大学へ留学意思のある学生が留学先の一つとして本学へアプローチしてもらうきっかけが必要と考えています。

本学ブランドの構築と留学生受入れ促進のために、海外の多様なステークホルダーを想定して、よりリアルでわかりやすい情報発信（①英語ホームページを軸とした海外において訴求力の高いコンテンツの活用及び制作、②海外の主要メディアにおける広告掲載、③本学アカウントでのSNS最新情報発信）を、教学企画部や国際連携部、各学部との連携体制をとりながら、本学の国際化の取り組みについて発信を強化していきます。同時に、①②③の実施においてそれらを効果的に連動させていくなかで、英語ホームページの年間PV（ページ閲覧回数）を200万PV（2016年度のPVの10%増）にすることを目指します。

以 上